

次期大学基幹・  
協働キュレーション環境WG  
事例：授業利用編

2022年7月1日

私立大学キャンパスシステム研究会



# はじめに

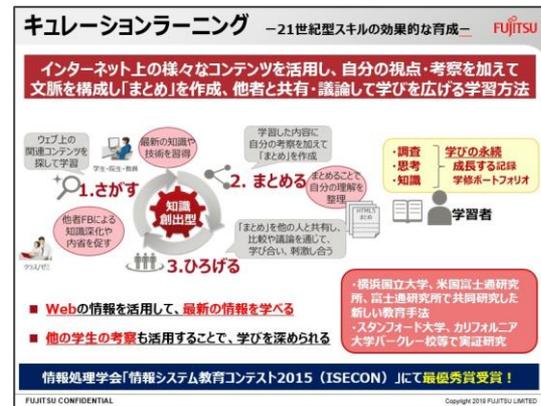
次期大学基幹ソリューションのアプローチの一つとして、協働的な教育・研究環境を提供するための協働キュレーション環境を構築し、そのサービスをCS研WG の管理のもとに試行的にオープンにします。

このWG 活動によって、協働キュレーション環境の普及における問題点を明らかにし、あらゆる教育・研究にかかわる活動が大学や組織を超えて協働する世界を拓く可能性を検証します。

更に、次期大学基幹ソリューションのニーズ抽出の場としても活動し、富士通Japanおよび賛助会員で構築されるエコシステムの実現を後押しします。

# 次期大学基幹・協働キュレーション環境WG

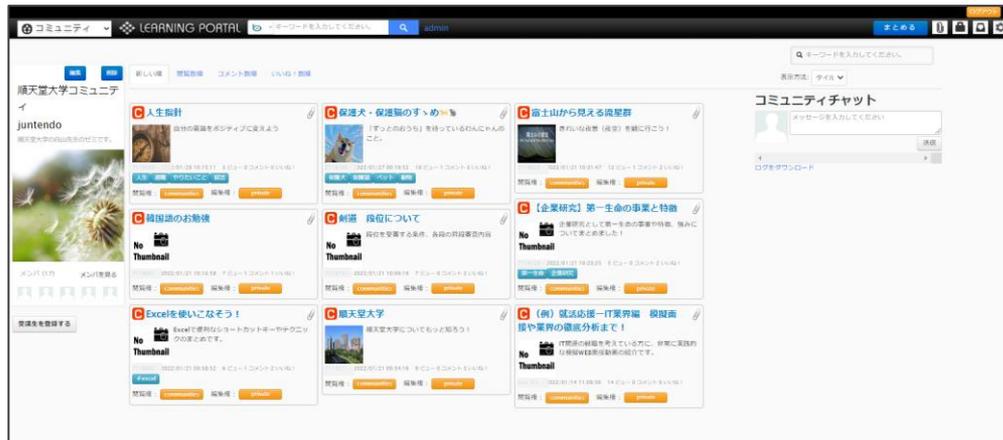
- 目的：協働的な教育・研究環境を提供するための協働キュレーション環境において、あらゆる教育・研究にかかわる活動が大学や組織を超えて協働する世界を拓く可能性を検証する。また、次期大学基幹ソリューションのニーズ抽出の場として活動。
  - 教員・研究者の教材共有・共同研究環境（オープンエデュケーション）構築
  - 次期基幹・教育システムの一部として、自らの学びおよび学び合いに欠かせないプラットフォームとなる新たなビジネスモデルを検討
- 発起人：明治大学 阪井先生（CS研会長）・ファーストスタープロジェクト 渡邊様
- 活動期間：2020年7月1日～2022年6月30日
- CS研としての意義（新しい取り組み）
  - ・正会員と賛助企業のコラボレーションの場を提供。



# 【活用事例】 順天堂大学：白山先生

## ■ 利用状況概要

利用期間	: 2022/1/13~2022/1/28
利用者数	: 12名(白山先生・教員アカウント含む)
ログイン数	: 47回(学生平均: 4.1回)
検索数	: 57回(学生さん: 47、先生: 10)
作成クリップ数	: 4個(学生さん: 4)
作成キュレーション数	: 10個(学生さん: 9、先生: 1)
コメント数	: 4個



## ■ 利用目的

- ・各自で興味のあることを発信

## ■ 特徴

- ・短期間(2週間)で機能を使いこなし、まとめを作成
- ・ビジュアルに工夫があり、考察も多く、完成度が高い
- ・楽しく語りかけるような書き方

## ■ 効果・影響

### ・活用アイデア

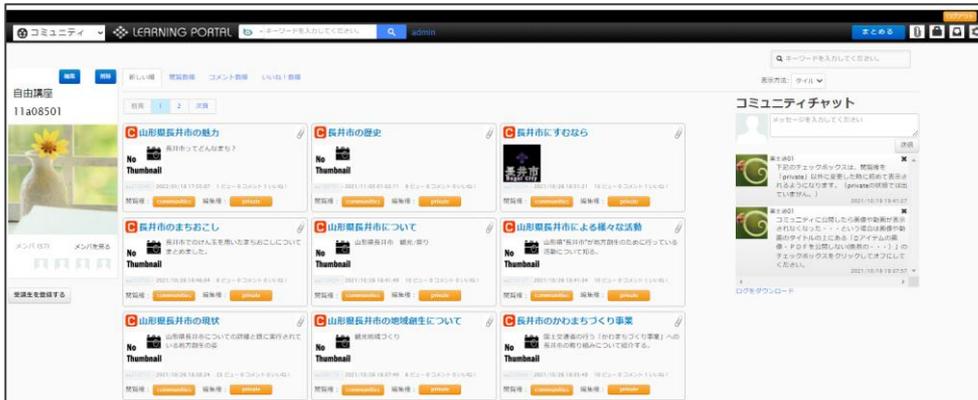
- 大学のゼミ(小コミュニティ内での利用)
  - 卒論、就活などの情報収集と記録
  - 自分にコメントをくれた人とのつながりができる
- ### ・利用者(学生さん)による感想レポート
- システムの意義、活用、課題についての分析を自主的にまとめて頂いた
- ### ・白山先生「BestProfessor」賞受賞
- 学生からの評価などから大学より受賞

# 【活用事例】 明治大学：阪井先生

## ■ 利用状況概要

利用期間	: 2021/9/22~2022/1/25
利用者数	: 47名(阪井先生含む)
ログイン数	: 207回(学生平均: 4.1回)
検索数	: 224回
作成クリップ数	: <b>278個</b>
作成キュレーション数	: 58個
コメント数	: 0個

最終アンケート回答数 : 6名



## ■ 利用目的

- ・ 地方活性化や地方創生でなされた活動を知る  
地方問題の本質を考える
- ・ グループ発表のための情報・思考のプロセスを記録

## ■ 特徴

- ・ 半期の講義で多くの情報収集、まとめを作成
- ・ クリップを多用
- ・ 情報の記録、思考の覚え書きを目的としたシンプルなまとめから他者への共有を目的にしたものまで幅広い内容

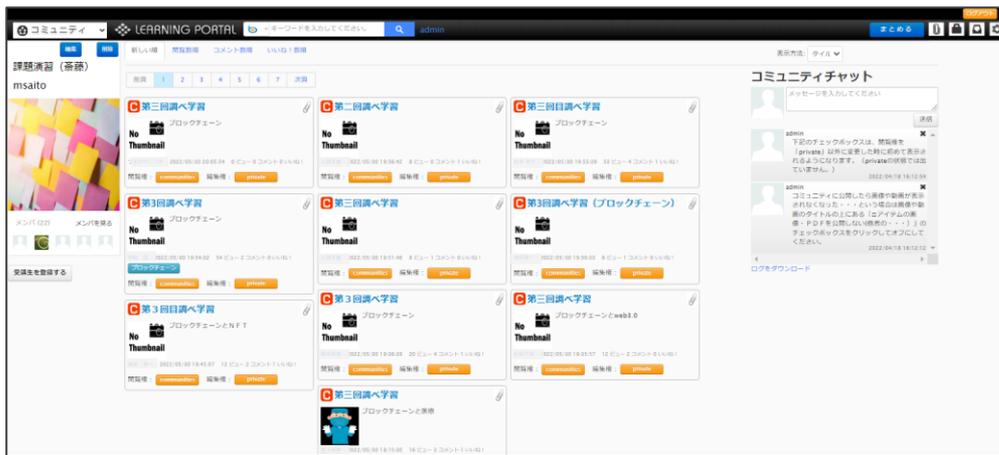
## ■ 効果・影響

- ・ **情報・思考の記録として有意義**
  - 「まとめて概要も出てくることで時間が経っても忘れず活用しやすい」
  - 「動画や地図など様々な資料を見やすくまとめられる」
- ・ **他者のまとめに影響を受けた**
  - 「他の人がどんな視点で情報をまとめているのかを見ることができたことで、自分の考えをより深めることができた」

# 【活用事例】 中央大学：斎藤先生

## ■ 利用状況概要

利用期間	: 2022/4/18~2022/5/30
課題数	: 3
利用者数	: 20名(斎藤先生の2アカウント含む)
ログイン数	: 146回 (学生平均: 7.6回)
検索数	: 15回
作成クリップ数	: 49個
作成キュレーション数	: 63個
コメント数	: <b>215個</b>
事後アンケート回答数	: 18名



## ■ 利用目的

- ・ AI、メタバース、ブロックチェーンなど最先端の技術、活用について調査、まとめる

## ■ 特徴

- ・ インターネットの情報の他、PDFを多く活用
- ・ コメントの数、量が多く、考察をしっかりとっている
- ・ コメントによるコミュニケーションで相互に良い影響を受けている

## ■ 効果・影響

- ・ **情報の統合記録として有意義**
  - 「他の人の資料や文献に簡単にアクセスできる、異なるサイトのものでも同様にまとめられる」
  - 「全員のコメントや投稿を簡単に一つにあつめられる、使いやすいシステム」
  - 「一つの話題に対して様々な資料を確認することができる」
- ・ **他者のまとめに影響を受けた**
  - 「意見を交換出来たり、他の人が調べた情報をすぐ見られる」
  - 「(他者のまとめを)共有することで多分野にわたって知識を深めることができた」

# Thank you